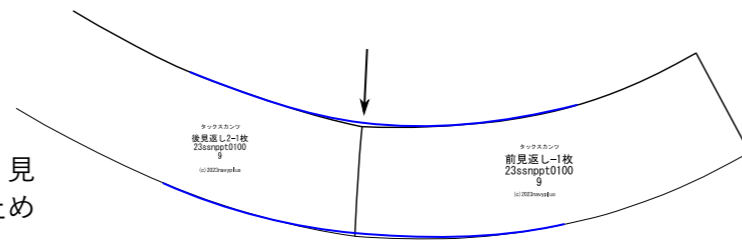
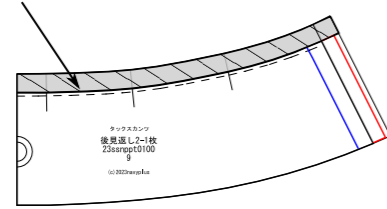


タックスカッツのウエスト補正

④ 見返しの脇線を突き合わせてみて、くの字状に線が崩れているようであればなだらかに引き直します。

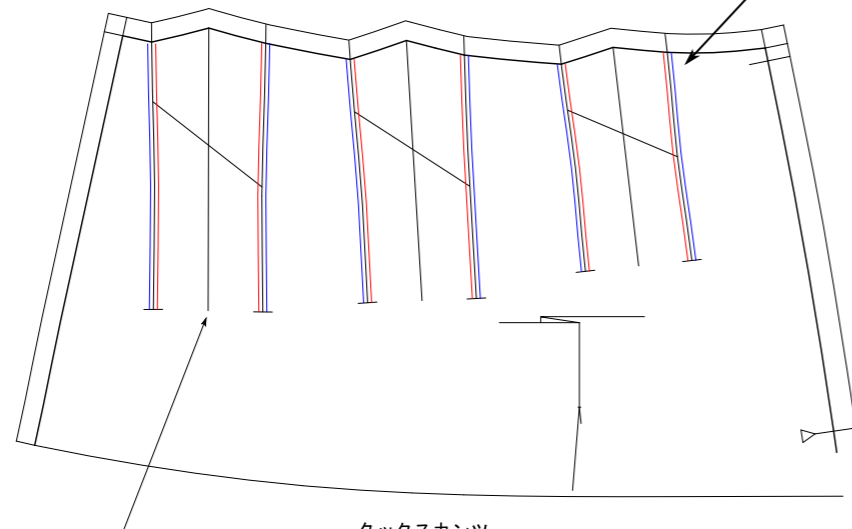
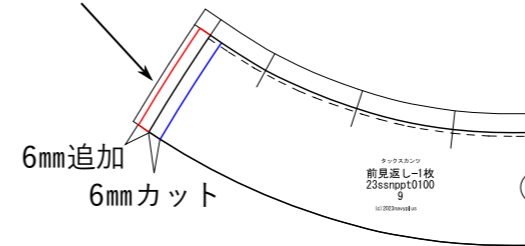


※接着芯だけでは心もとない場合は、見返しのウエストライン縫い代に伸び止めテープを貼ります。

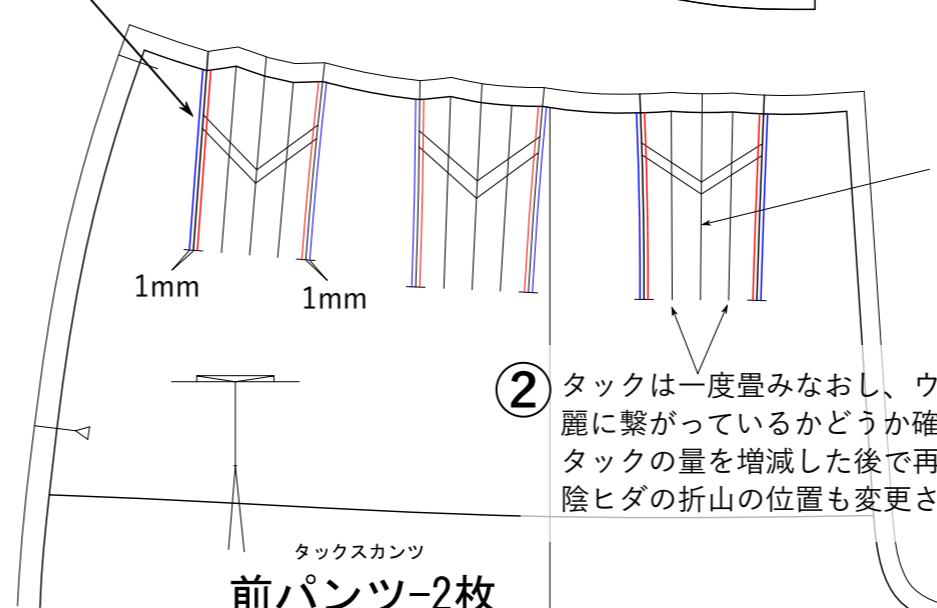


① ウエストを追加する場合は赤線のようにタックの分量を減らします。逆に、ウエストを削る場合は青線のようにタックの分量を増やします。ひとつのタックにつき2mmずつタック分量を増減させれば、ウエスト全体で2.4cmほど寸法が増減する事になります。

③ 見返しはウエストの脇線の増減で寸法を調整します。単純に、身頃のタックで増減した分量と同寸法を増減すればOK。例えばひとつのタックにつき2mmの増減であれば、脇で増減するのは6mmという事になります。



タックスカッツ
タックの中心位置はズレません。
後パンツ-2枚
23ssnppt0100
9



タックスカッツ
前パンツ-2枚
23ssnppt0100
9

② タックは一度量みなおし、ウエストラインが綺麗に繋がっているかどうか確認を。タックの量を増減した後で再度量みなおすと、陰ヒダの折山の位置も変更されます。

タック類を縫う場合は、縫合した後に必ず寸法を確認する癖を付けて下さい。どんなに繊細に補正をした所で、狙った寸法に仕上がらなければ何の意味もありませんよね。補正をした時間が無駄になってしまいます。今回のスカッツのように、ウエストベルトではなく見返し始末の場合は特に、縫い伸びしやすくなります。タックも正確に縫えて、見返しも寸法通りなのに、生地によってはいざ縫い合わせると1サイズ大きく仕上がっていた。などという事もざらにあります。生地に不安があるのであれば伸び止めを追加する等、タックに関しては神経質になり過ぎるくらいがちょうど良いと思います。

タックに限らないのですが、製作途中の要所要所で出来上がり寸を確認する癖を付けると良いでしょう。

それから、根本的に自分のヌード寸は正確に把握してからサイズ選びを。スカッツの場合は、見てわかる通りミドルヒップから下はほぼフリーサイズです。となると気にするべきはウエスト寸法だけでOKです。また、このパンツは見返し始末の為、ベルト付きのパンツよりもウエストのホールド力が弱いので、ウエストがホールドされていないと不安な人は補正下着でそこを補うと良いでしょう。計測も補正下着を着用した状態で行って下さい。



補正以前の話